



皆さま、本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。
さあ、2009年最初の松前屋通信のスタートです！

新春一番の縁起物！宝恵駕籠行列



綾部が行く！
心斎橋レポート

年始セール賑わいの落ち着いた1月10日、商店街に響く楽しげな掛け声と拍子…。この日は新年明け一番の華やかな行事「宝恵駕籠（ほえかご）行列」の日です。

宝恵駕籠行列とは、心斎橋・道頓堀のあたりから、十日戎の会場である今宮戎神社へ向かって行列となって練り歩く年始の行事です。紅白で縁起が良い布で盛装された駕籠に、商店街のトップレディや福娘、芸能人、文楽の人形などが乗り込み、商売繁盛の七福神“えべっさん”のお祭の会場へと向かいます。今年は朝の連続ドラマに出演中の三倉茉奈・佳奈姉妹も乗って一層華やか。



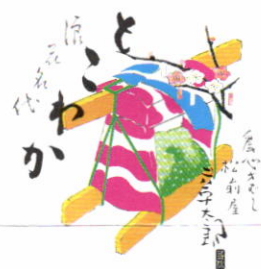
↑商店街トップレディの駕籠。
今年は松前屋の提灯も付いています

乗る方々の挨拶が行われる道頓堀には盛大な行列を見たりカメラに収めようと多くの人が集まり、不景気も寒さも忘れる賑わいです。

宝恵駕籠行列は江戸の中期くらいから出るようになったらしく、当時は芸妓界の催し物で『おいらん道中』に近いものがあつたようです。その目的は、商売の神様への1年の祈願と奉納ですので、旦那衆が競って芸者を乗せて『散財』したといひます。つまり宝恵駕籠に乗る芸者などは旦那の代わりに乗っているわけです。神様にもわかるように『散財』して見せるのですから、そりゃ駕籠も乗っている人達もとても華やかなのは納得できますね。

さて、実はそんな宝恵駕籠は「とこわか」のギフト袋や、掛け紙に色鮮やかに描かれているんですよ！この「とこわか」の宝恵駕籠は人間国宝の花柳章太郎さんが、先々々代のアヤマ社長と親しかったため、昭和30年頃に自筆で描いてくださったものだそうです。300年続けられている宝恵駕籠行列のように「とこわか」の宝恵駕籠もこれからもずっと愛され盛り上がり上がってほしいものです。

っというわけですので、社長！ 旦那衆として一回『散財』して見せてほしいなあ…。



健康法師の独り言 パート24

禁煙は意志より医師！

『食品会社の社長ともあるうものが、未だに喫煙しているとは何事か？』っというお叱りの声をよそに、『喫煙くらいで味が分からんようになる様なヤワな鍛え方はしてないわい！』などと、花外楼の徳光社主ともにもうそぶいていた私でした。といいつつも、カラオケで元の声が出ない、咳が二ヶ月治らない、肺がんは手術不能と脅かされるなど…。大事になるかもとビビってきている自分もいます。おまけに、なんだか肺まで痛いような気がして来て…。コッホン、コッホン…。

そこで友人の内科クリニックに行き、遂に禁煙治療を始めることになりました。飲酒検問のように器具で『毒され濃度』を測って、薬の強さを決めます。そして薬をのみながら、思いつき煙草を吸うこと一週間。確かに煙草が以前のように美味しくないと感じながらも、『ああ、明日から実際の禁煙だあ！』少々の喪失感にさいなまれながらも、ついに正月を迎えると同時に禁煙開始です。

ところが、ナント簡単！ー！ ナント変な味！ この治療薬は、ニコチンで体内いっぱい状況に肉体を錯覚させるものらしいのです。今や禁煙パッチなどは過去のもの、医者への伝家の宝刀はこの薬です。体が拒絶するように、吸ってもひどくマズく感じるようにしてくれています。医者には、それでも意志7割といわれていますが、3割の気がします。

三年前には意志の力で禁煙し、太ると言ってトレニングをしまくって、結果、腰を痛めて不幸を感じてまた吸ったものでした。この論理の飛躍こそが意志力の欠如の表れなのですが、今や昔のこととなりそうです。

今回の禁煙内科の治療は、保険適用で三ヶ月間だけ有効です。二週間おきの医師のチェックが必要で、それで薬がもらえるわけです。何とはなく、医者への応援・監視付きってのがいいですねえ。一人じゃない！ っって感じでしょうか…。

禁煙を目指す皆さん、今や医者に相談すると禁煙の成功率も高まります！ いかがでしょうか？
次は薄毛治療だ！ 医者にかかるゾ！



↑禁煙スタート用の禁煙補助薬。
禁煙前1週間から服用します

前回ご紹介の【爽臭革命】は「健康の杜」（お電話0120-999-229）約一ヶ月分三千円ほどにて販売されています。